

發育不良のホルスタイン種育成牛にみられた 腎芽細胞腫

丹後家畜保健衛生所

○ 田 中 究 黒 田 洋 二 郎

【はじめに】腎芽細胞腫は腎臓原発性の腫瘍で、牛での発生は極めてまれであり、その殆どはと畜場で発見されている。今回、發育不良との稟告で病性鑑定を実施したホルスタイン種育成牛を腎芽細胞腫と診断したのでその概要を報告する。【経過】育成牧場入牧時（5.7か月齢）から軟便と下痢を繰り返し發育不良（69日間で体重141.5kg→133.0kg）、9.5か月齢で病性鑑定を実施した。【病性鑑定結果】糞便虫卵検査及び牛白血病ウイルス抗体検査は陰性で、血液生化学検査でもTCHO（15mg/dl）が低値の他はBUN（10.8mg/dl）、CRE（0.5mg/dl）、GOT（67U/l）、GGT（18U/l）等、ほぼ正常値であった。病理解剖では、左腎部に割面乳白色充実性で辺縁に残存腎組織を認める人頭大の腫瘤及び全身リンパ節の軽度腫大を確認したが、右腎を含めその他の主要臓器に著変は見られなかった。病理組織学的検査では、両腎臓の皮質間質に多形性の核を有する類円形細胞の集簇、腫瘤はPTAH染色で赤色に染まる膠原繊維の増生により不規則に区画され、大小様々の管状～乳頭状に増殖する腺管構造とその周囲に腎皮質と同様の類円形細胞を認めた。【まとめ】本症例の消化器症状は腎腫瘍の消化管圧迫により生じたものと推察し、腫瘍は腎芽型腎芽細胞腫と診断した。